

恵庭市長定例記者会見 (R7.12.16)



お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は、第4回定例会が終了しましたので、議会を終えての所感、並びに今後予定する事業などについて発表させていただきます。

今議会におきましては、「第6期恵庭市総合計画の基本構想」や

「令和7年度 一般会計補正予算」などについて審議いただきました。その全ての議案についてご承認いただきましたことに、まずもって感謝いたします。

また、一般質問や各常任委員会の中で、市政の各般にわたる課題に関し、ご提言をいただきました。

これら議会からのご指摘を大切にしながら、さまざまな施策の推進を図って参ります。

初めに、「第6期恵庭市総合計画策定」についてであります。

第6期恵庭市総合計画 基本構想につきましては、恵庭市まちづくり基本条例 第21条において、多くの市民の参加のもと、議会の議決を経て策定する旨を定めております。これまで「市民意識調査」を始め、一般公募市民による「市民まちづくりワークショップ」、地域住民による「市民の広場」や各種団体による「分野別意見交換会」、中学生を対象とした「中学生向け講座」、高校生・専門学校生・大学生からの意見募集、「総合計画シンポジウム」、「パブリックコメント」等を実施しました。多様な市民参画の機会を通じて、市民意見の反映に努めるとともに、総合計画審議会での熱心な審議を経まして、本日、市議会の議決をいただきました。

策定にあたってご協力いただきました総合計画審議会委員や市議会議員の皆さんをはじめ、市民の皆さんに対しまして心からの感謝の意を表し、お礼を申し上げます。

本市を取り巻く社会・経済情勢の変化のスピードが早く、本市は今大きな転換期を迎えており、この転換期にあたり、「花のまち」や「読書のまち」といったこれまで市民に支えられたまちづくり文化を資源として再認識し、さらに本市の文化を磨き上げて参りたいと考えております。配布した資料にございますとおり、令和8年度より、将来都市像である「未来をひらく つながり広がる 文化創造

都市～笑顔咲く暮らし彩るガーデンシティ～」の実現をめざし、5つの基本目標とそれを支える将来都市像の実現に向けた行政運営に沿ってまちづくりを進めてまいります。

2点目は、「市民の広場の開催」についてあります。

市職員などが市民の皆さんと対話し、協働のまちづくりを進めるため、令和8年1月19日（月）18時から、市民の広場を開催します。

今回のテーマは「多文化共生」についてです。近年は外国人住民が増え、日常の中で異なる文化や言語にふれる機会が広がっていますが、生活習慣や文化の違いから、お互いの理解が十分でない場面も見られています。

こうした状況を踏まえ、誰もが暮らしやすい多文化共生の地域を実現するため、市民、外国人住民、そして行政が対話を通じて理解を深めることを考えるワークショップを行いますので、参加を呼びかけます。

3点目は、「市民課窓口のワンストップ化」についてあります。

本市では、デジタル技術を活用したスマート自治体を目指しており、恵庭市デジタル化推進計画に基づくスマート窓口の推進の一環として、証明書発行時の「書かない窓口」を進めてきました。

令和8年1月、市本庁舎1階の市民課及び国保医療課のレイアウトを変更し、2月下旬より、市民課においてライフィベント関連手続きのワンストップ窓口を実施いたします。

このことにより、住所異動等に伴う関連手続きについて、各窓口を回らずに手続きができるようになり、利用者の負担軽減が期待されます。今後も、隨時ライフィベント関連手続きをワンストップ窓口で受けられるよう業務の拡充を図ってまいります。

4点目は、「市内の養鶏農場で発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫措置及び監視の終了」についてあります。

11月2日に市内の養鶏農場で発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましては、同日より殺処分が開始され、11月7日に殺処分が完了いたしました。

その後も消毒作業が継続して実施されておりましたが、11月10日に発生農場内の防疫措置が完了し、12月2日に制限区域を含めた防疫措置が終了したところであります。

その後、1週間の監視期間を経て、12月10日に「監視強化区域解除検査」での『陰性』確認に伴い、監視を終了したところであります。

本市からも作業支援を行いながら、北海道が主体となって防疫措置が進められていますが、全ての対応が完了しましたので報告致します。

5点目は、「新たな市営住宅の完成」についてであります。

令和5年度より、恵央団地PFI建替事業として進めておりました、『新たな市営住宅』につきましては、土屋ホールディングスにより建設工事等を進めておりました。この度、本年12月に竣工し、来年1月から令和28年3月までの約20年間、市営住宅として借り上げることとしております。

借上期間中、建物管理全般は土屋ホールディングスが行い、当市では他の市営住宅と同様、入居者管理を中心に行うこととしております。

本市営住宅には、老朽化が進んでいる柏陽団地をはじめ、若草団地や島松地区にある寿第二団地、寿第三団地の入居者が移転いたします。また、来年1月には新たに入居募集を行う予定です。詳細につきましては、広報えにわ1月号にてお知らせいたします。

教育長から発表

私からは、「市民会館の改修工事に関するお知らせ」についてご説明いたします。

市民会館の耐震化等改修工事につきましては、大ホール側を1期工事、中ホール及び会議室側を2期工事として実施しているところであります。

この度、令和7年1月より工事を進めておりました1期工事が完了し、令和8年1月9日（金）より大ホールの供用を開始いたします。

引き続き、2期工事として中ホール及び会議室側の耐震化等改修工事を1月19日より着手する予定です。工事の完了は令和9年2月末を予定しております。

これに伴い、利用できなくなる室があるほか、市民会館受付がエントランスホールに移転し、教育委員会は2階の展示室及びリハーサル室A、Bに移転いたします。

なお、2期工事中の市民会館への出入りにつきましては、正面出入り口のみ使用可能となります。

●質疑応答

発表項目について

（記者）市民の広場の開催について、テーマを「多文化共生」としたのはなぜか。

(市長) コロナ禍以降、外国人住民は飛躍的に増えている。最近では地域まつりなどにも外国人住民の方も参加する機会が増えてきているが、外国人住民が少ない地域では交流する機会が少ないので現状。今後も増えることが見込まれる外国人住民について、これを機にさまざまな市民の皆さんに認識を深めてもらおうと思っている。

(記者) 近隣市では外国人住民が問題視されているところもあるが、そうしたことを見意識してのものか。

(市長) そうした意識はない。恵庭に一緒に住んでいる以上、お互いの文化を知って交流したいと思っている。

(記者) 外国人住民はどの国の人が多いのか。

(市長) ネパール、フィリピン、ベトナムなどが多い。

その他について

(記者) 市民からの政策提案制度の創設について具体的に聞かせて欲しい。

(市長) 現在行政改革推進委員などに諮りながら検討を進めているところ。現時点ではいつから始めるかなどは決まっていない。

(記者) 市民の代表である市議会議員による政策提案とどのように違うのか。

(市長) さまざまなルートがあった方が良いと思っている。これまで議会だけではなく、各団体や町内会からの要望、市長への手紙など、さまざまなかたちで提案を受けてきた。

(記者) 重点支援地方交付金を活用したおこめ券の配布を考えているか。

(市長) 市民の皆さんに物価高騰対策だと捉えてもらえるような事業を検討中。

(記者) 日本ハムファイターズ2軍施設の誘致における進捗状況は。

(市長) 進展はないが、意見交換を進めているところ。

(記者) 2軍施設が恵庭市に決まった場合のまちづくりの構想を聞かせて欲しい。

(市長) 今回策定した総合計画は、2軍施設の誘致を前提として策定したものではない。恵庭市に決定した際には、計画の変更や拡大といったことも考える必要がある。